

マルティン・フィッシャー＝ディースカウ (Martin Fischer-Dieskau)

歌手ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ (Dietrich Fischer-Dieskau) とチェロ奏者イルムガルト・ポッペン (Irmgard Poppen) を両親としてベルリンで生まれる。1974年、19歳で、ベルリンのシャルロッテンブルク城でのハイドンのオペラ「月の世界」 (Il mondo della luna) の勉強をもって音楽家としての道を歩む。その後ベルリンの芸術大学で指揮を、自由大学でイタリア文学と音楽学を学ぶ。

1976・1977年、彼はドイツ音楽協会指揮者部門で入賞した後、ドイツのオーケストラで指揮をとることになり、それが小澤正爾との出会いに繋がる。小沢は1978年、彼をレオナルド・バーンシュタイン奨学生として初めてタングルウッド (Tanglewood) に招き、その後も2年招待が続く。1978年、彼はアンタル・ドラティ (Antal

Doráti) に招かれ、デトロイト・シンフォニーオーケストラの副指揮者に就任する。その後ドラティの助言によって、彼のもとで学んだ体験をもとに、ドイツの地方劇場 (1980□82年。アウグスブルク・アーヘン・ハーゲン) のオペラ歌手指導者・楽長として再度「伝統的な手法」の習得に力を注ぐ。第一指揮者としてベルン (1990□94年) でイタリア学と20世紀のオペラを担当した後、彼はEnglish Opera

North、シュトゥットガルト州立劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、そして1998年にはトリノ王立劇場 (“Don

Giovanni”) でオペラ指揮者としての本格的な勉強を重ねる。同時期に、彼はグラナダとヘルシンキの音楽祭、ベルリンの音楽祭週間でゲスト出演を果たす。

マルティン・フィッシャー＝ディースカウは1983年以来、ロイヤルフィルハーモニー、ロンドンフィルハーモニー、ベルリンフィルハーモニーほか、多くのヨーロッパ、アメリカ、日本のオーケストラ (東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団) の指揮台に立つ。彼が指揮した世界のオーケストラの数は、今日では100に近づいている。

マルティン・フィッシャー＝ディースカウが特に力を入れているのはスタンダード・レパートリーの拡大 (BIS、Marco Polo、IPPNW concerts社の録音) である。彼はARDテレビ局の「音楽の旅」番組の司会者でもある。彼はパイロイトの青年音楽祭のリーダーを務めた。1994年から2004年まで、彼はブレーメン芸術大学指揮科の教授であった。

マルティン・フィッシャー＝ディースカウは、カナダKWシンフォニーオーケストラ (2001□04年) の首席指揮者として、新しいプログラム、新しい演奏地の開発と新しい観客層の動員に成功を収める。彼はこのオーケストラを率いて、ドイツ・カナダ・フェスティヴァルをトロントで開催した。

2005年、マルティン・フィッシャー＝ディースカウは、フロリダのボカ・ラトン (Boca Raton) で新しく設立されたオーケストラの育成に力を貸す。彼は翌シーズンにはこのオーケストラを指揮して、広大な敷地に1万5000人を超える観衆を前に屋外コンサートを開催、聴衆を魅了した。同年、マルティン・フィッシャー＝ディースカウは台湾の音楽界と初めて接触する。彼は台湾のメトロポリタン・シンフォニーオーケストラを指揮し、同時に台北のNTNU大学で指揮者養成に当たった。彼はまた著名な台北シンフォニーオーケストラを指揮し成功を収めると、この楽団の団員たちは2007年、慣習にそって2シーズン彼を首席指揮者に選出する。過去4世紀の作品から台湾のヴァンギャルド作品に至るまで、さまざまな角度から選ばれた7つのプログラムは、彼が指揮するナショナル・コンサートホールの観客に大きな感銘を与える。プッチーニとヴォルフ・フェラリ的一幕物2作品は、2008年9月完全な形で演出され、インタナショナル・プッチーニ会議の開催によって花を添えられた。

マルティン・フィッシャー＝ディースカウの今後のスケジュールには、フィンランドとチェコからの再度の招請のほかに、オランダ・シンフォニーを率いて同国の名だたる都市を巡る拡大公演旅行が予定されている